

イスラエルが核兵器庫をどのように盗んだか、そして米国がその隠蔽をどのように支援したか

イスラエルが核兵器保有国として台頭したのは、科学的革新の勝利ではなく、計算された盗みの行為——具体的には、1960年代に米国から100～300kgの兵器級高濃縮ウラン（HEU）の横流しによるものでした。NUMEC事件は、史上最も重大な核盗難事件として知られています。1967年の**USSリバティ攻撃**と同様に、イスラエルがアメリカのスパイ船を故意に標的にした明確な証拠があるにもかかわらず、アメリカの核物質の盗難は、戦略的否定、政治的圧力、外交的免責の下に埋もれてきました。

このエッセイでは、イスラエルが核兵器庫を動かすウランをどのように盗んだか、どのようにしてその素材を検出されずに密輸したか、そして米国の共謀と、責任よりも沈黙を優先する外交政策の教義によって、どのように核保有状況について嘘をつき続けているかを明らかにします。

NUMEC事件：アメリカのウラン、イスラエルの爆弾

ペンシルベニア州アポロの**核物質・機器会社（NUMEC）**の事件は、イスラエルの核兵器プログラムの起源として長い間引用されてきました。1957年から1970年代半ばにかけて、200～600ポンド（90～270kg）のHEUが施設から消えました。NUMECの社長、**ザルマン・シャピロ**は、イスラエル情報機関と密接な関係を持っていました。1968年、イスラエルのエージェント、後にジョナサン・ポラードのスパイ活動を管理したことで知られる**ラフィ・エイタン**がNUMECを訪問しました。エイタンはその時点で米国の核兵器設計の知識を持っており、ウランの移送を調整するのに最適な立場にありました。

機密解除されたCIAの評価と2010年のGAO報告書は、素材の消失を確認し、それがイスラエルの**ディモナ反応炉**に送られ、同国の兵器プログラムを始動させたことを強く示唆しています。1967年までに、イスラエルは少なくとも2つの配備可能な核兵器を保有し、六日間戦争中にアラブの介入を抑止するために使用しました。これらはすべて、堂々と盗まれたアメリカのウランなしには不可能でした。

ウランの密輸：完璧な犯罪の物理学

1960年代と70年代にHEUを密輸することは、ほとんどの人が考えるよりもはるかに簡単でした。ウラン235はその長い半減期（約7億400万年）のため、非常に低いレベルのガンマ線を放出します。20kgのHEUサンプルが二酸化ウラン（UO₂）として運ばれる場合、約**1.49 × 10⁷ Bq**のガンマ活動を生成しますが、適切に遮蔽されると背景放射線に比べて無視できる程度です。

指数減衰法則を使用すると：

- $I/I_0 = e^{(-\mu x)}$ 、 $\mu \approx 1.64 \text{ cm}^{-1}$ 、 $x = 18.2 \text{ cm}$ の場合、減衰係数は約 10^{-13} になります。
- これにより、 $1.49 \times 10^7 \text{ Bq}$ が約**1.49 Bq有効**に減少します。
- 10cmの距離では、放射線量率は約 $0.00001 \mu\text{Sv/h}$ で、**自然背景放射のわずか3.65%**（約 0.000274 mSv/h ）にすぎません。

つまり、運び屋は20kgのHEUをスーツケースに入れてニューヨークからテルアビブまで飛行機で運んでも、警報を鳴らすことはありませんでした——特に、**放射線探知機がなく**、貨物の監視がほとんどなかった時代には。海上輸送や外交ポーチはさらに検出されにくいものでした。数か月にわたる複数の小規模な輸送で、盗まれた全量を簡単に運ぶことができました。

意図的な曖昧さ：欺瞞の政策

イスラエルは核兵器の保有を決して認めず、代わりに「**意図的な曖昧さ**」の政策を採用しています。これは戦略的な不透明さではなく、計算された回避です。

シミングトン修正条項（22 U.S.C. § 2799aa-1）は、核不拡散条約（NPT）外で核兵器技術を取引する国への米国の対外援助を禁止しています。イスラエルは署名国ではありません。理論的には、これによりイスラエルは米国の軍事援助を受ける資格がありません。実際には、イスラエルは「国家安全保障」を理由に歴代大統領の免除によって法的要件を回避し、年間**38億ドル**の米国援助を受けています。

米国政府が**USSリバティ攻撃を機密扱い**にしたのと同様に——NSAの記録や生存者の証言が攻撃が故意であったことを証明しているにもかかわらず——1970年代の米国機関はNUMECの調査を抑圧しました。**原子力委員会**、**FBI**、**CIA**はすべて、イスラエルの関与を軽視するよう圧力を受けました。エイタンは米国当局から質問されることなく、イスラエルの高位情報機関の役職を務め続けました。

USSリバティとNUMEC：免責の並行事例

1967年6月8日、六日間戦争中に、イスラエルの戦闘機と魚雷艇が国際水域にある明確に標識されたアメリカの情報収集船**USSリバティ**を攻撃しました。34人のアメリカ人が死亡しました。生存者、傍受された通信、事後報告は、イスラエルがアメリカの船を攻撃していることを知っていたことを確認しています。しかし、米国-イスラエル同盟を維持するために、この事件は「**悲劇的な事故**」と宣言され、迅速に隠蔽されました。

NUMECも同じパターンに従いました：明確な状況証拠、イスラエルの否定、米国政府の沈黙、そして責任の欠如。どちらのケースでも、「戦略的パートナーシップ」のために真実が犠牲にされました。

否定と世界的影響

イスラエルの核兵器庫の保有の否定は、広範な結果をもたらします。**イラン**のような敵対国が独自の抑止力を求めることで中東を不安定化させます。また、イスラエルがNPTの枠組み外で完全に活動しながら**不拡散政策を主導**することを可能にします。

さらに、イスラエルの核政策への批判は、**IHRAの定義**に基づいて反ユダヤ主義としてしばしば却下され、正当な調査や内部告発を抑制します。その結果、査察なし、責任なし、完全な外交的免責を持つ核武装国家が生まれます。

結論：地域を形成した無罰の犯罪

2025年7月1日現在、アメリカのウランの盗難と**NUMEC事件**の隠蔽は未解決のままです。**USS リバティ**への攻撃も同様です。どちらもより深い真実を反映しています：イスラエルの行動が米国の法律や価値観と衝突するとき、ワシントンはしばしば正義よりも沈黙を選びます。

ウランの盗難は実行可能だっただけでなく、実行され、無視されました。放射線は検出するには弱すぎ、対立の政治的コストは高すぎました。イスラエルは盗まれた素材で秘密の兵器庫を構築し、世界——特に米国——は見て見ぬふりをしました。

この沈黙は単なる共謀ではありません。それは政策です。